

「人と人のつながりの中で 互いに学び成長していこう」 山形南ロータリークラブ会報

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT2800

RI会長：ジェニファーE.ジョーンズ 2800地区ガバナー：佐藤 孝子 ガバナー補佐：後藤 憲一
会長：熊谷 昌和 幹事：佐々木 啓充 会報・史料委員会 委員長：間木野 仁美
委員：金田 亮一 佐々木健一 武田 浩敬 伊藤 健二 渡邊 清則

第2361 回例会

2022-11/8 (火) 天気(曇)

□例会場：ホテルキャッスル

□司会進行 (SAA)：渡辺 崇 君

□点 鐘：PM 12:30 熊谷 昌和 会長

□ロータリーソング：「国歌」「四つのテスト」

会長挨拶



皆様こんにちは。久しぶりの通常例会となりました。皆様お変わりございませんでしょうか。今日のゲスト卓話は幅広くハープを中心に活動を行っています合資会社オトツブハープ代表芹沢朋さんをお呼びしています。ぜひ、演奏も含めお楽しみください。さて、前回の金井こども園との悪戸芋収穫体験例会の後、創立50周年記念実行委員の役員6名で10月26・27日と一泊二日にて、中津ロータリークラブへお礼訪問に行き参りました。当クラブの50周年祝賀会には17名もの皆さんがお祝いに来ていただいたこと、また、当クラブにこの目の前にある素敵な演台を記念品として贈っていただいたこと、そして、今回の訪問にあたり、昼の例会を夜の例会に変更していただいて歓迎会を開催していただいたこと等、三つのお礼と感謝の気持ちを述べてまいりました。また、次年度は中津ロータリークラブ創立70周年記念祝賀会が令和6年3月に行われるとの事です。これまでの長い交流と深い親睦に対し、感謝の気持ちを表すためにも、中津クラブの70周年時は大勢でお伺いしたいと考えています。

さて、話は変わりますが、11月となってお年玉付き年賀状のはがきが販売される季節となりました。そこで筆ペンについて文具よもやま話の一つお話ししたいと思います。お客様によく上手に書ける筆ペンはどれですか。初心者は固い方が良いといわれますが、どうですか。

筆ペンの持ち方

細い線は紙に対して90度 太い線は箸を持つように30度で。

筆ペンの選び方

かたい方が初心者用と言われますが、かっこよく上手に書きたいのなら、毛筆タイプの筆ペンで 細い線と太い線を書けるようにする。

練習をする

コツとして 細い線は震えないでシューと一気に書く。丸・三角・四角等の図形を描いて太い線と細い線の練習をする。最後に、最低自分の名前だけはかっこよくなるよう、楽しんで練習をしてみてください。

以上で会長あいさつを終わります。



例会場／ホテルキャッスル 例会日／毎週火曜日 12:30～13:30

事務所／山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社 社務所ビル2F TEL.023-632-7777 FAX.023-624-5200

山形市内 例会日案内

月 曜 日

山形西 山形イブニング

火 曜 日

山形中央

水 曜 日

山形

木 曜 日

山形北

金 曜 日

山形東

幹事報告

佐々木啓充 幹事

本日は6点ございます。

1. 11月13日(日)は荘銀タクト鶴岡にて地区大会が開催されます。往復バスをご利用の方は朝6時50分までにホテルキャッスルにお集り下さい。7時に出発致しますので遅れないようにお願い致します。
2. 11月22日(火)は祝日の週につき休会となります。その翌週11月29日(火)は夕方6時半より三津屋さんにて新そばを食う例会となります。当日はロータリー財団と米山奨学会への寄付もどうぞよろしくお願い致します。
3. 10月29日(土)にロータリー財団セミナーが鶴岡で開催され熊谷会長、大久保パストガバナー、奥村ロータリー財団・米山奨学委員長、私の4名で参加して参りました。
4. 10月31日(月)に惺山高校にてインターアクトクラブの活動視察に熊谷会長、金田青少年奉仕委員長、私の3名で参加いたしました。
5. 今月のロータリーレートは1ドル148円となります。
6. 本日の例会終了後に理事会を開催いたしますので理事の方はお残り下さい。



米山奨学生コウ・シクンさんに奨学金の贈呈。

委員会報告

親睦活動委員会 山田 雅人君

11月の誕生日は茨木寛司君、熊谷一幸君、鈴木宏之君の3名の方です。おめでとうございます。

米山奨学小委員長 大久保章宏君

11月29日(火)のロータリー財団・米山奨学会のフォーラムでのご寄付宜しくお願いいたします。

■ ニコニコBOX 丹野 善将 君

- 大久保章宏君 50周年記念誌配布いたしました。一読してください。29日のロータリー財団・米山奨学会フォーラムでのご寄付宜しくお願いします。
- 金田 亮一君 50周年記念誌が完成いたしました。関係者に御礼申し上げます。また、悪戸いも収穫体験無事終了いたしました。ありがとうございました。
- 金森 正耕君 会報文字が大きくなり読みやすくなりました。若い方の出席率を上げていただきたい。
- 武田 和夫君 妻の誕生祝のお花ありがとうございました。
- 青山治右衛門君 10月に近江商人発祥の地に行ってきました。
- 浅野 裕幸君 中津RC訪問に行ってきました。中津70周年の会長です。よろしくお願いします。
- 石山 祐介君 中津RC訪問に行ってきました。15日に7RCゴルフ反省会あります。記念誌完成に感謝いたします。
- 熊谷 昌和君 11月1日山形県民手帳の発売でテレビに出ました。
- 長沢 一好君 10月31日南沼原小学校の工事が無事完了いたしました。
- 佐々木啓充君 15日地区大会宜しくお願いいたします。

11月度理事会報告

〈報告事項〉

○10月29日(土)のロータリー財団セミナーに大久保パストガバナー、熊谷会長、佐々木幹事、奥村ロータリー財団・米山奨学大委員長の4名で参加して参りました。

弘前アップルRCの関場慶博パストガバナーと木村みさき平和フェローの講演が行われ、エンドポリオまでもう少しと言われて10年がたちますが、あと10年のうちにポリオを根絶できるだろうとの事でした。来年の1月にインドで3年ぶりのワクチン接種活動を行うそうです。

〈協議事項〉

12月20日(火)のクリスマス家族例会の参加範囲を配偶者だけにするか、子供も含めるか協議いたしました。当日の検温をしっかりと子供まで含めた参加範囲で開催する事で承認されました。また会費についても物価高騰の影響で会員・配偶者は7,000円、子供は3,000円とすることで承認されました。



プロフィール

合同会社 ototsubu harp 代表
音楽家

芹 沢 朋 氏 (せりざわ とも)

文化のるつぼ、メキシコで育つ。8歳で帰国。

祖母の郷里の福島県相馬市で日本語（東北弁）を覚える。

その後母の住む東京で学生生活を送る。

21歳でアコーディオンの演奏をはじめる。

クラシック和声、作曲論を二ノ宮洋、コンテンポラリージャズ作曲論を松井秋彦、アコーディオン平山尚、金子元孝、各氏に師事。

1997年にアコーディオンとヴィオラを中心としたアンサンブルユニットCOSETTE（コゼット）を結成。広尾プラザ・日本橋三越・六本木ヒルズなど都内各地の商業施設やホテルで演奏を行う。

2003年より代官山レストランマダムトキの専属演奏家として婚礼演奏を担当。

2005年applepaintfactoryよりCD「kaleidoscope」を発売。

CDジャーナルでも紹介された。

クリエイティビティーを求められる場を得意としており、映像作品や芝居音楽への楽曲提供、出演をしている。



これまで芹沢朋が参加した作品例：

クリエイティブ21制作

林雅行監督 映画「人間の碑」

舞台「負けえせん」

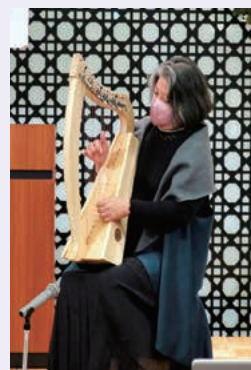
講談社MOOK「栗林忠道からの手紙」

関口祐加監督 映画「毎日がアルツハイマー」シリーズ

宇井孝司監督 朗読劇「祈り3部作」

新見真琴演出 ジョージオーウェル「パリロンドン放流紀」

ギィ・フォワシーによる『自警団』『動機』



2010年横浜に山手子供音楽教室を設立。

オリジナル教材を開発し、楽しみつつ無理なく音楽が学べる

教室として人気となり2021年12月に山形移住直前まで生

徒数は常に50名以上と常に満席。



音楽活動に多忙な日々の中で実現できなかった「もうひとつの夢」
田舎に移住すること。ハープを弾くこと。



コロナ禍により、すべての音楽活動がストップし思いがけず新しい芽が芽吹き始め気が付けばぐんぐん成長し、いつの間にか横浜の小さな音楽教室では収まりきらなくなって山形にやってきました。移住してちょうど1年。合同会社となって半年。ただいま奮闘中です。

昨年、横浜から移住 工房構える芹沢さん

ここ数年人気が高まっている小型のハープを作っている工房が山形市にある。主宰するのは、横浜市から昨年移住した芹沢朋さん(47)合同会社ototsubu harp代表社員。使用する弦にこ

だわったオリジナルの「おとつふハープ」は、小さくて軽いのに音が響く」とプロからの評価も高い。作品は全国各地に出荷され、山形で作った国産ハープを世界に輸出したい」と意欲的に語る。

芹沢さんは子どもの頃からピアノに親しみ、大学卒業後はアコースティック奏者やピアノ教室講師として音楽に携わった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で仕事が難しくなったことをきっかけ



小型ハープ「おとつふハープ」を手掛ける
芹沢朋さん 山形市

小型ハープ 山形から発信

音色追求、県産木材にも注目

に、「小さくて響きの良い楽器がほしい」と、以前から興味のあった小型ハープを本格的に研究することに。横浜の住まいがハープでいっぱいになり、自然豊かな生活をしたよう移住を決意した。ハープの本体はバキスタン(パキスタン)の工房から取り寄せているが、当初は思うような音が出なかった。張ってあった弦の代わりになさままな釣り糸を試して響きを追求し、「クオリティーを高め、物を楽器にする」作業にのめり込んでいる。

こうして生まれたおとつふハープは「音の粒、1音を楽しめるハープ」との願いを込めて命名。芹沢さんは「音の模様のよう、弦を好きにはじきたいだけで気持ちいい」と笑顔を見せる。ほとんどが膝に乗るサイズで、気軽に持ち運べる。自分でメンテナンスできるのも特長の一つだ。

おとつふハープの愛好家は全国で増えている。「もったいない音」と高品質を求める芹沢さんは、本県の豊かな森林に注目。ブナの木で作る本体はバキスタンから輸入しているが、いずれ山形産で作れたらと構想を練っている。今後は実物に触れるギャラリーの開設を計画中だ。「はじけば音が出るハープは誰でも楽しめる楽器。経験のない人にも普及していきたい」と語った。

おとつふハープは12、22弦のタイプがあり、価格は3万8千〜8万円程度。ホームページ(https://www.ototsubu.com/ototsubuharp)で注文を受け付けている。

(江袋和貴子)

2022年5月2日 山形新聞掲載記事

2800地区公式Line友だち登録をしてください。

役立つ情報をお届けいたします。宜しく願いいたします。



○本日出席・前回修正出席

	会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日	51名		27名	
前回修正				
他クラブでメイクアップされた会員				

※本日の結果は2週間後に報告 ※修正は2週間前の結果報告

出席会員数÷算出会員数=出席率

算出会員数とは？ 出席義務会員+メイク免除会員の出席者

出席会員数とは？ 出席義務会員の出席者+メイク免除会員の出席者+メイク会員

